

環境基本計画2025					アクションプラン2023		アクションプラン2024		関連するSDGs	
実行目標計画の取り組み項目		活動内容	指標	単位	目標	計画	実績	計画	ゴール	
I 脱炭素社会の実現	1 円滑な交通の確保	高速道路ネットワークの整備	開通延長	km	開通延長 47km	累計16km	累計16km	累計16km		
		省エネルギーの推進	電気使用量の削減	電気使用量	kWh/m <sup>2</sup>	オフィスの電気使用量を5%削減する(2020年度比) 2020年度実績...155KWh/m <sup>2</sup>	3.0%削減(2020年度比)	2.5%削減(2020年度比)	4.0%削減(2020年度比)	
	2	道路施設の維持管理に要する電気使用量を削減する	電気使用量	千kWh/km	道路営業延長あたりの電気使用量を5%削減する。(2020年度比) 単位:千kWh(電気使用量)/車線km(車線延長)	3.0%削減(2020年度比)	7.6%削減(2020年度比)	4.0%削減(2020年度比)		
			新築社屋のZEB化(※1)	導入量	箇所	2030年度までに新築建築物の平均でZEB Ready相当(※2)となることを目指す	導入に向けた基準・要領の検討	導入に向けた基準・要領の検討を実施 ・R6.4設計指針集追加	導入に向けた設計・検討	
		道路照明及び道路事業に関わる建築物へのLED照明の導入	導入量	箇所	2030年度までに道路照明及び料金所、休憩施設におけるLED照明の導入割合を100%とすることを旨とする。	アクションプラン2024新規目標		2030年度までに道路照明及び料金所、休憩施設におけるLED照明導入割合100%を目指し、取り組みを推進する。		
		既存社屋におけるLED照明の導入	導入量	箇所	2030年度までに支社等におけるLED照明の導入割合を100%とすることを旨とする。	導入に向けた基準・要領の検討	検討の結果、LED標準化済みのため新たな基準策定の必要なし	2030年度までに支社等におけるLED照明導入割合100%を目指し、取り組みを推進する。		
		ガス使用量の削減	オフィス活動に要するガス使用量を抑制する	ガス使用量(都市ガス+LPGガス)	m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>	ガス使用量を抑制する(2020年度比) 2020年度実績...0.34m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>	ガス使用量を抑制する(2020年度比)	12.0%減少(2020年度比)	ガス使用量を抑制する(2020年度比)	
		社用車燃料使用量の軽減	電動車の導入(維持管理車両を除く)	調達率	%	2030年度までの電動車導入率100%を目指し、車両入替に当たり順次電動車を導入する	2030年度までの電動車導入率100%を目指し、車両入替に当たり順次電動車を導入する	導入率76.4%	2030年度までの電動車導入率100%を目指し、車両入替に当たり順次電動車を導入する	
		再生可能エネルギーの調達	再生可能エネルギーの調達	調達率	%	2030年度までに支社等で調達する電力の60%以上を再生可能エネルギー電力とすることを旨とする	2030年度までに支社等で調達する電力の60%以上を再生可能エネルギー電力とすることを旨とする	再生電力調達について調達の先事例等の調査を実施	2030年度までに支社等で調達する電力の60%以上を再生可能エネルギー電力とすることを旨とし、取り組みを推進する	
	太陽光発電導入の推進	新設料金所等に太陽光発電を設置する	導入量	KW	新設料金所等に太陽光発電を70KW設置する	累計20KW	累計20KW	累計20KW		
		社屋に太陽光発電設備を設置する	導入量	KW	2030年度に当社が保有又は管理する支社及び高速道路の維持管理・建設を担当する事務所の設置可能な建築物(敷地を含む。)の概ね50%以上に太陽光発電設備を設置することを旨とする	導入に向けた基準・要領の検討	国交省ガイドラインの社内発出、ガイドラインに基づく設置可能対象の精査を実施	導入に向けた設計・検討		
	3 二酸化炭素吸収源対策	道路緑化等によるCO2の固定	盛土のり面等の樹林化整備を推進する	整備面積	ha	盛土のり面等の樹林化整備を46ha実施する	累計16ha	累計16ha	累計16ha	
			建築物に木材の利用を促進する	-	-	建築物に木材の利用を促進する	建築物の木材利用拡大を検討する。建物の新築や改修時において木質化を推進すべく、対象範囲(目に触れる機会が多いと考えられる部分を中心に、内装等の木質化を図ることが適切と判断される部分)や施工手法などを検討する	内装等の木質化における施工手法の検討を実施。	木造建築の導入に向け、関連工事の進捗を考慮しつつ発注計画を策定する。(佐伯弥生PAトイレ)	
	4 技術開発	新技術・新材料の開発	再生アスファルト混合物の適用性を検討する	-	-	再生アスファルト混合物の試験施工の実施等、適用可能箇所での高速道路舗装への活用を図る	再生アスファルト混合物の高速道路舗装への活用方法の検討・取りまとめ	R5.7設計要領改定により上層路盤のアスファルト安定処理路盤にAs再生骨材を使用可能として基準化	2023年度完了	
省CO2に資する材料の適用性を検討する			-	-	省CO2に資する材料の適用性を検討する	低炭素型コンクリートの試験施工を実施	低炭素型コンクリートの試験施工を実施	低炭素型コンクリートの試験施工を実施		
脱炭素社会を実現するためクリーンエネルギー車の普及に対応したインフラ環境整備を推進する			-	-	エネルギー供給システムに対応した、適切なインフラの整備	電気自動車用急速充電設備を新たに40口増設	電気自動車用急速充電設備を新たに23口増設	電気自動車用急速充電設備を新たに85口増設 ※2023年度未達箇所含む。		
II 循環型社会の形成	5 環境に配慮した製品・資材等の調達の推進	グリーン調達の推進	工事用資材における特定調達物品等の調達率の向上を目指す	調達率	%	品目毎の調達率の向上を目指す	同左	調達可能な品目について調達を実施	品目毎の調達率の向上を目指す	
		事務用品における特定調達物品等の調達率100%を目指す	調達率	%	特定調達物品等の調達率100%を目指す(規格等により適合商品が無い場合を除く)	同左	調達可能な事務用品については100%調達	特定調達物品等の調達率100%を目指す(規格等により適合商品が無い場合を除く)		
	廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進	一般廃棄物(資源となるものを除く)の排出量を減量する	-	kg	一般廃棄物の排出量を抑制し、分別回収に努める 2020年排出量4,698kg(本社)	一般廃棄物の排出量を抑制し、分別回収に努める	一般廃棄物の排出量を昨年度以下とし、分別回収に努めた 2023年度排出量1,768kg(本社)	一般廃棄物の排出量を抑制し、分別回収に努める		
		植物系廃棄物(草刈等)の再生資源化を推進する	再生資源化率	%	植物発生材の有効活用率97%を目指す	97.0%	99.1%	97.0%		
		建設発生土の再利用を推進する	再利用率	%	建設発生土のリサイクル率80%を目指す	80.0%	95.1%	80.0%		
		アスファルトコンクリート塊の再生資源化を推進する	再生資源化率	%	アスファルトコンクリート塊のリサイクル率99%を目指す	99.0%	100%	99.0%		
		コンクリート塊の再生資源化を推進する	再生資源化率	%	コンクリート塊のリサイクル率99%を目指す	99.0%	100%	99.0%		
		休憩施設での発生ゴミの再生資源化を推進する	再生資源化率	%	発生ゴミのうち、再生資源可能なものについて再生資源化率100%を目指す	100%	100%	100%		
		建設発生木材の再生資源化を推進する	再生資源化率	%	建設発生木材のリサイクル率97%を目指す	97.0%	98.6%	97.0%		
	建設汚泥の再生資源化を推進する	再生資源化率	%	建設汚泥のリサイクル率95%を目指す	95.0%	97.5%	95.0%			
	コピー用紙の使用量を削減する	-	-	2021年度を基準としてコピー用紙使用量の削減率10%を目指す	10% (2021年度比)	13.4% (2021年度比)	2021年度を基準としてコピー用紙使用量の削減率10%を目指す			
6 自然環境の保全	エコロードの推進	動物侵入防止対策を推進する	設置・改良延長	km	既設路線の動物侵入防止柵を270km設置・改良する	累計130km	累計128km	累計133km		
		設置延長	km	建設路線に動物侵入防止柵を80km設置する	累計26km	累計25km	累計25km			
	地域性苗木を設置する	設置本数	本	地域性苗木を約5.5万本設置する	累計1.6万本	累計1.6万本	累計1.6万本			
7 生活環境の保全	道路交通騒音対策	高機能舗装の敷設を推進する	敷設延長	車線・km	高機能舗装を455車線・km敷設する	累計185車線・km	累計179車線・km	累計223車線・km		
		遮音壁の設置を推進する	設置延長	km	遮音壁を15km設置	累計1.4km	累計1.4km	累計2km		

※1 ZEB: Net Zero Energy Buildingの略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスの建築物。

※2 ZEB Ready: ZEBを見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備え、一次エネルギー消費量を50%以上削減した建築物。